



題字は達増知事

令和8年7月号

発行所

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 滝沢市砂辺389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

U R L : <http://iwate.lin.gr.jp>E-Mail : info@iwate.lin.gr.jp

印刷 小松総合印刷



日本の風土にあった牛づくり

独立行政法人 家畜改良センター岩手牧場

場長 大井 真紀子

乳用牛の改良増殖を推進するためには、遺伝的能力が判明した後代検定済種雄牛及びヤングサイアを作出し供給するシステムが極めて重要です。

2011年5月、家畜改良センターの所有する貴重な雌遺伝子を活用し、国産種雄牛の交配による優秀な種雄牛を作出することを目的に、学識経験者、酪農家、人工授精師協会、指導機関など多様な組織から構成された優秀国産種雄牛作出検討委員会(J-Sireプロジェクト:以下「JSP」という。)が設立されました。家畜改良センター岩手牧場では、そのプロジェクトの一環として、ホルスタイン種の後代検定済種雄牛及びヤングサイアの生産を担っています。

JSPは、『1.日本の風土にあった牛づくりを目指す。2.ゲノミック評価を基本として、その序列を考慮しつつ、委員会の特色を出したヤングサイアを選抜する。3.総合指数(NTP)を重視しつつ特徴ある形質を有する牛を組み入れる。4.民間では取り組むことができない家畜改良センターの雌遺伝子と最先端技術を駆使する。』の4つの理念の下、現場のニーズや最新の知見などを踏まえ、家畜人工授精事業体協議会のサポートにより種雄牛を作出しています。

具体的には、種雄牛作出のための計画交配(岩手牧場産未經産雌牛に国産ヤングサイアを交配)を行う選定部会が年3回、ゲノミック評価に基づく後代検定済種雄牛の選抜及び後代検定参加種雄牛の選定を行う検討委員会が年2回開催されています。

家畜改良センターが公表している最新の乳用種雄牛評価(2026年2月評価)では、JSPの理念に基づき、岩手牧場産の後代検定済種雄牛1頭、ヤングサイア1頭の精液供給が開始されました。後代検定済種雄牛として新たに選抜された「NLBC ラビグ リア ET」は、暑熱耐性・耐久性成分・在群能力が高く体細胞スコア・泌乳持続性に優れた種雄牛です。ヤングサイアとして精液供給が開始された「JSP メカニカル ロールプレイ ET」は、乳脂量・産乳成分・暑熱耐性に優れており、乳脂量の改良や暑熱環境で発揮する泌乳能力が注目されています。

令和7年4月に国が公表した家畜改良増殖目標において、乳用牛では、「輸入精液の利用割合が増加傾向にある中、我が国の環境下で評価された遺伝的能力が高い国産種雄牛の精液の利用が図られるよう、今後とも、NTPに基づく総合的に遺伝的能力が高い国産種雄牛の作出・利用を推進するものとする。」とされており、JSPプロジェクト、中でも岩手牧場の果たす役割が今後ますます重要になると考えています。

岩手県は、乳用牛の飼養戸数が全国2位・飼養頭数が全国4位(農林水産省「畜産統計」令和7年2月1日時点調査)の酪農県です。岩手牧場では、地元岩手の畜産関係者や酪農家の皆様のご意見やニーズを大切にしながら、日本の飼養環境や課題に適した国産種雄牛づくりを目指していく所存ですので、なお一層のご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

畜産春秋

もくじ
CONTENTS

畜産春秋.....	1	畜産フェア開催.....	7
第94回定時総会.....	2	家畜の保健衛生(166).....	7
令和7年度岩手県獣医師畜産業績発表会(岩手県知事賞畜産部門).....	3	畜産の研究(161).....	8
岩手県チキン協同組合第54回通常総会.....	5	乳用牛群検定情報(24).....	9
岩手県馬事振興会第54回定時総会.....	6	畜産技術情報(115).....	10
岩手県養豚振興会第29回通常総会及び養豚経営研修会.....	6	子牛市場及び家畜市場成績.....	12
岩手県乳用牛群検定推進協議会令和8年度通常総会.....	6		

【「岩手の畜産」は、バックナンバーも含め協会のホームページでご覧いただけます。】

第94回定時総会

令和8年6月30日に一般社団法人岩手県畜産協会の第94回定時総会が開催され、上程の第1号議案「令和7年度計算書類及び財産目録について」及び第2号議案「役員の補欠選任について」は、それぞれ原案どおり可決承認されました。

1 会長挨拶要旨

畜産を取り巻く経営環境は、近年の飼料価格の高止まりの状況下で、特に、和牛繁殖農家の離農などにより、子牛の市場上場頭数が不足し、子牛相場が1頭当たり85万円超えと9年ぶりの高水準となっている。

一方、和牛肥育農家にとっては、このように肥育素牛価格が上昇し、枝肉相場も現在の状況が続けば、赤字となる状況が見込まれることから、20か月後の相場等について注視していく必要がある。

国が昨年の4月に公表した食料・農業・農村基本計画では、食料安全保障を全面に打ち出し、国内生産の増大を図ることを基本として、食料の安定的な供給を行うことが重要であるとされている。

国内生産の拡大には、いかに国内資源を有効活用するかという視点が大事であり、全国でみても、飼料作物の作付面積は約100万haと、主食用米に次ぐ主要な土地利用型作物となっている。また、水田地帯ではイネWCS（ホールクロップサイレージ）等の飼料生産を通して、耕種農家と畜産農家による耕畜連携が構築され、相互協力と自然循環を形成している。

このように飼料生産は、言うまでもなく、畜産経営の強化策であるとともに、国土保全上も大きな役割を担っている。このような観点からも、あらためて、畜産経営の安定と食料安全保障の確保に向けて、飼料作付面積の拡大を図るため、今後とも、関係者が一丸となった取組を強化していく。



当協会としては、これらの情報等を共有し、引き続き、県内関係機関、団体との連携を図りながら、個別経営体への経営改善指導や生産基盤の維持、強化等につなげて参りたい。

2 令和7年度事業報告

(1) 概況

令和8年2月に金ケ崎町内で高病原性鳥インフルエンザが発生するなど、本県畜産の生産基盤を脅かす状況が続いており、防疫対策の徹底に万全を期する必要がある。

当協会では、昨年10月の「第16回全日本ホルスタイン共進会」の出品牛選抜会を兼ねた県共進会を9月に開催し、近年最多となる125頭の出品があるなど、大いに盛り上がりを見せた。本番では本県代表牛から過去最高となる5頭が優等賞を獲得し、うち経産牛1頭が35年ぶりとなる優等賞1席を受賞するなど、厳しい酪農情勢の中で農家の大きな励みとなる成果を収めた。

令和7年度は、令和5年度から進めてきた収益改善対策の最終年度として、飼養頭数減少の現状を鑑み、収益事業の大きな柱である「家畜人工授精用精液流通調整事業」の手数料について、精液単価区分ごとの見直しを行った。

畜産経営を取り巻く環境は、長期化するウクライナ情勢に加え、令和8年2月の米国・イスラエルによるイラン攻撃等に起因する原油価格急騰など、世界情勢の影響から輸入依存の危うさが一層浮き彫りとなっている。特に経営を左右する飼料価格が長年高止まりを続けるなど、依然、厳しい状況が続いており、当協会には今後一層、畜産農家のニーズへの的確な対応が求められている。

事業実績は下記のとおり。

(2) 主な実績

ア 畜産生産基盤育成強化事業

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

- ・畜産経営体支援指導研究会 1回
- ・経営診断に基づく改善指導等 170件(延べ)
- ・地域セミナーの開催 3回

イ ミルキングシステム診断事業

酪農経営における収益性向上のため、ミルキングシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

くずまき高原牧場

酪農教育ファーム認定牧場 (第0301002号)

牧場体験承っております

アイスクリーム作り体験、牛・羊の世話、乳搾り体験、羊の毛刈り体験、しいたけ採取体験



乳製品の宅配承っております



かわいい動物たちとふれあえます

(ご予約・お問い合わせ先)

くずまき交流館 プラトール

TEL. 0195-66-0555

<https://kuzumaki.jp>

- ・ミルキングシステム診断 268基
- ・バルククーラー点検 263基
- ウ 優良繁殖雌牛更新加速化事業
高齢な繁殖雌牛から優良な若い繁殖雌牛への更新による肉用牛生産基盤の強化を図るため、本県の事業窓口団体としての事務を行った。
 - ・奨励金交付頭数 336頭
- エ 畜産クラスター機械導入事業
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。
 - ・8畜産クラスター協議会
粗飼料生産機械等の導入 48台
- オ 馬の改良増殖推進事業
農用馬の改良及び生産振興を図るため、優良種雄馬の繁殖奨励金等の交付を行った。
 - ・優良種雄馬繁殖奨励 種付け頭数 25頭
 - ・子馬生産奨励 子馬生産頭数 29頭
- カ 肉用牛肥育経営安定対策事業
肉用牛肥育経営の安定を図るため、肉用牛肥育経営安定交付金の生産者積立基金の造成・管理と補填金交付事務を行った。
 - ・登録生産者数 257戸
 - 負担金納付実績頭数 24,374頭
 - ・補填金交付実績 4,924頭 交付額 89,808千円
- キ 家畜自衛防疫事業

家畜伝染性
疾病の発生を
予防するた
め、地域ぐる
みのワクチン
接種を推進し
た。

ワクチンの種類	頭数
牛5種混合（生）	13,735 頭
牛5種混合（不活化）	4,712 頭
牛6種混合（生・不活化）	5,239 頭
牛6種混合（生）	3,328 頭
牛ヘモフィルス	14,281 頭
豚丹毒（生）	34,253 頭
豚丹毒（不活化）	24,930 頭

- ク 家畜人工授精用精液流通調整事業
本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。
 - ・凍結精液の供給 79,055本
 - ・受精卵の供給 988個
- ケ 家畜登録事業
本県で飼養される乳用牛及び豚の家畜登録事業を実施するとともに、本県の肉用牛繁殖牛群の改良と能力向上並びに繁殖農家の所得向上に資するため肉用牛ゲノミック評価の窓口業務を行った。
 - ・家畜登録件数 乳用牛 10,607件、豚 1,898件
 - ・肉用牛ゲノム検査件数 1,123件

3 補欠選任された新役員

○理事

- 小岩 一幸（一般社団法人岩手県農業会議）
- 坂本 昇（全国共済農業協同組合連合会岩手県本部）
- 畠山 正（株式会社いわちく）
- 佐々木 真（岩手県町村会）
- 八重柏孝規（岩手県南家畜衛生推進協議会代表幹事）
- 大崎 健司（岩手県北家畜衛生協議会代表幹事）
- 米谷 仁（学識経験者）

○監事

- 工藤 孝志（岩手県信用農業協同組合連合会）
- 荒木田裕樹（岩手県農業信用基金協会）

なお、第94回定時総会終了をもって渡辺亨副会長が退任し、総会終了後に開催された令和8年度第2回理事会において、後任の副会長には菊池伸也常務理事が、常務理事には米谷仁新理事が選定されました。

令和7年度岩手県獣医畜産業績発表会

岩手県知事賞（畜産部門）

シン・耕畜連携

～ 水田を基盤とした地域自給飼料生産供給モデルの構築 ～

一関農業改良普及センター 大友英嗣

1 課題背景

飼料の高騰と牧草の夏枯れが顕著となり、多

年生牧草に代わる新たな飼料作物の生産・確保が畜産サイドの喫緊の課題だった。



母豚2,000頭の一貫経営

- ・JGAP認証農場
- ・良質豚糞堆肥の供給
- ・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「みなみよ〜とん株式会社」

岩手町大字川口36-242-3
TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373
※精肉のご用命は岩手畜流会（食肉専門店）へ

一方、主食用米、飼料用米、稲発酵粗飼料（以下「稲WCS」という。）を基幹品目とする集落営農法人（以下「法人」という。）は、収益性に課題があり、中でも稲WCSは、品質の向上を畜産経営体から強く求められていた。このような中、農研機構において育種された初の東北向け稲WCS専用品種「つきはやか」がデビューし、注目が集まっていた。

2 活動の内容

(1) 多年生牧草に代わる適性品目選定と栽培技術の検討

・二毛作を基本に、当地域で一般的でない10品目の実用性を検討

・検討した中から以下の有望品目を選定

二毛作の冬作：ライ麦、イタリアンライグラス「クワトロTK5」

二毛作の夏作：スーダングラス「ヘイスーダン」、飼料用ヒエ「青葉ミレット」

大豆後作の小麦サイレージ（以下「小麦S」という。）

オーチャードグラスの新品種「きよは」、「まきばゆうか」

10月	11月	12~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ライ麦 播種				追肥	収穫					播種
				スーダングラス 播種	追肥	収穫				

図1 ライ麦、スーダングラスの二毛作栽培体系イメージ

ア 特に有望な品目① ライ麦、スーダングラスの二毛作

- ・ライ麦2回、スーダングラス2回の計4回刈り
- ・牧草2年分相当の乾物収量を確保
- ・面積を増やさず増産が可能、「ワルナスビ」の抑制効果もあり

イ 特に有望な品目② 大豆後作の小麦S

- ・大豆の圃場に裏作で小麦を播種、小麦S収穫後に再び大豆を播種
- ・種子は地域内の『くず小麦』を活用（地域資源の循環と低コスト化を実現）
- ・大豆収穫後の播種は、時期が遅く低収だった→大豆収穫前にドローンによる立毛間播種に変更（省力化と収量向上を確認）
- ・生産コストは乾物1kg当たり7.4円（多年生牧草では約17円）
- ・タンパク含有率が乾物中15~19%（稲

WCSとの併用給与に好適）

・雑草抑制、作業料収入、二毛作助成金など法人側にもメリットあり

法人が作業						畜産経営体が作業		
8~9月	10月	11月	12~2月	3月	4月	5月	6月	7月
大豆 	収穫 前作					田植え	耕耘 播種	大豆
小麦S 播種	前作 追肥			追肥		収穫		
							牧草収穫	

図2 大豆後作の小麦S 立毛間播種(ドローン)体系イメージ

(2) 稲WCS専用品種「つきはやか」栽培体系の確立

- ・穂が短く少ない(極短穂系品種)
→栄養ロスが少ない
- ・収穫適期が遅く、長い
→刈り遅れ回避
- ・倒伏しない
- ・茎葉の糖含量が高い
→良質な発酵が期待
- ・繊維の消化率が良い

これまでの稲WCSの課題が解決できるかも??

図3 「つきはやか」の特性

ア 栽培適性の検討

- ・従来品種「つぶゆたか」と比較し、1.5~3倍の収量を確保
- ・耐倒伏性が強く、元来、倒伏が課題の湛水直播体系に適応性あり
- ・直播の中でも特に散播に適応性高く、高収量を確保

イ 飼料品質の評価

- ・出穂後40~90日の栄養価の変化はほぼない、収穫適期が従来品種より30日以上長い
- ・サイレージの成分は従来品種よりADF^{※1}が低く、TDN^{※2}が高い結果、「つきはやか」の有望性を確認

・収穫体系別品質比較では、ダイレクト体系が予乾体系より発酵品質、嗜好性ともに高評価

※1 酸性デタージェント繊維、※2 可消化養分総量

ウ 大規模省力機械化体系

- ・作業能率(時/ha)は慣行比33%、収量は慣行比108%、法人から高評価



図4 大規模省力機械化体系

動物の健康は人の健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品

MPアグロ株式会社

本社:北海道北広島市大曲工業団地6-2-13 盛岡支店:TEL 019(638)3291

・当該体系の収支を試算、減価償却費含みで収益が出ることを確認

・当該機械の導入条件を整理（下限面積15ha、上限面積27ha）

エ 地域内需要の把握と作付け誘導

・酪農家全戸巡回時に「つきはやか」の周知PRを実施、需要量を把握

・把握した需要量を法人と共有、品種転換による経済効果を明示し作付けを誘導

(3) 実効性の高い耕畜連携体制の確立

・実績検討会やセミナー等あらゆる場面で耕畜両経営体を参集、意識的に両者の接点を増やすよう活動

・耕畜両経営体の生産供給マッチングを仲介

・法人の専用収穫機導入をサポート（国庫事業等）

3 活動の成果

(1) 構造的成果

・「耕畜」双方がメリットを享受できる生産供給モデルが成立

小麦Sモデル2例、「つきはやか」モデル2例、計4例

「つきはやか」モデルは2例とも専用収穫機を導入

(2) 面的成果

・新たな飼料生産の取組面積、取組経営体が急“伸”

特に小麦Sと「つきはやか」の拡大が顕著
小麦は牧草地への追播等新しい利用に発展

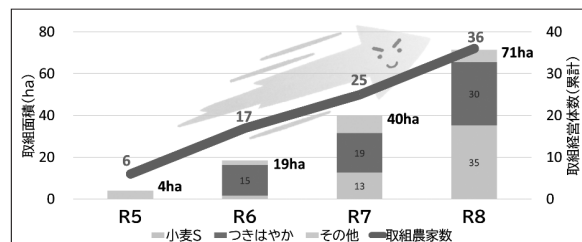


図5 取組面積と取組経営体数の推移

4 活動手法の考察

農産・畜産普及員が専門分野の常識から離れ、タッグを組み“真”剣に取組んだ。耕畜経営体も普及センターの本気度に影響され、両経営体の相互理解や連携が“深”化した。その結果、生産供給、農地の高度利用、作業分業、未利用資源の循環、技術交換など、これまでにない多層的な“新”しい耕畜連携が実現した。そして、この連携が、さらなる連携を呼び、発展する姿こそ“真”の耕畜連携であり、今後目指すところ。

5 今後に向けて

・課題：取組の面的拡大に対応した、広域的な供給体制の確立

・対応：地域自給飼料の広域PRとマッチング、需給調整や販売を一手に担うハブ機関の設置

執筆：奥州農業改良普及センター

小川音々（元 一関農業改良普及センター）

岩手県チキン協同組合 第54回通常総会

令和8年5月21日、岩手県チキン協同組合（矢元淳一理事長）の第54回通常総会が、組合員全員出席の下、盛岡市内で開催されました。



矢元理事長

油断することなく組合員の皆様と一丸となって防

冒頭の理事長挨拶要旨は次のとおり。「鳥インフルエンザが、令和7年シーズンは全国で24事例発生し、約576万8千羽が殺処分されるなど、業界にとって昨シーズンと同様に厳しい一年となった。今後も

疫対策に努める。また、資材不足やコスト高騰など、先行きの見通しが難しい経営環境に対応していく必要があります、次世代を担う人材育成や就職活動支援など、未来へつながる組合活動を継続的に展開していく。組合員の皆様には引き続き御協力を願う。」

総会では、令和7年度事業報告・決算、令和8年度事業計画・予算等の議案が原案通り承認されました。令和8年度事業計画では、県南・県北チキン生産者技術者連絡協議会の活動を支援するとともに、岩手大学、県、食鳥検査機関等と連携し、大腸菌症等による廃棄率の低減対策等に向けた農場、食鳥処理工場の衛生管理対策の強化、10月29日の「岩手とり肉の日」PR活動を中心とした県産鶏肉の普及宣伝等に重点事業として取り組むこととしました。

農畜産物の「安心・安全」を未来につなぐ

小田島商事株式会社

本社 〒025-0311 花巻市卸町66番地 TEL 0198-26-4151

＜動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材＞

花巻(営) 0198-26-4700 八戸(営) 0178-34-2284

大船渡(出) 0192-26-4740 プレミックス工場 0198-26-4726

横手・青森・古川・山形・酒田・福島・旭川・札幌・帯広・釧路

岩手県馬事振興会 第54回定時総会

令和8年5月28日、一般社団法人岩手県馬事振興会（千葉伝会長）の第54回定時総会が盛岡市内で開催されました。



千葉会長

冒頭の会長挨拶要旨は次のとおり。「長引く中東情勢により、飼料等の高騰が経営に影響を及ぼす中、重種馬の飼養戸数、頭数の減少が続いているが、岩手県馬事振興会では、県立農業大学の農大祭での馬に直接触れる機会の提供や、出前授業で担

い手確保に努めている。また、岩手県畜産共進会の出品手当新設や輸送費補助の増額により、前年より出品頭数が増加し、例年にも増して活気ある開催となり、岩手県馬事振興会の活動の成果が表れた。本日の総会を通じて、本県の馬事振興に向け、皆様の継続的な支援・協力をお願いしたい。」

総会では、令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画等が審議され、原案どおり承認されました。令和8年度事業計画では、飼養管理技術の向上のための講習会の開催、盛岡農業高校（盛農祭）での重種馬との触れ合いや出前授業を通した担い手育成、優良基礎雌馬の選定及び保留奨励金の交付、岩手県畜産共進会への出品手当等の継続などに重点を置いた事業推進を図ることとしました。

岩手県養豚振興会 第29回 通常総会及び養豚経営研修会

令和8年6月15日、岩手県養豚振興会（橋本晋栄会長）の第29回通常総会及び令和8年度第1回養豚経営研修会が盛岡市繫で開催されました。



橋本会長

冒頭の会長挨拶要旨は次のとおり。「養豚業界が一致団結し、一次産業を支えるという自負を持って課題に取り組む姿勢が必要。また、次世代を育成し、さらに強い産業へと発展させたい。先般、法律改正により豚熱の選択的殺処分が制定されたが、殺処分後の処理について、研修会等を通じて皆さんと学びながら考えていきたい。」

総会では、令和7年度事業報告、収支決算、令和8年度事業計画等について審議されました。

令和8年度事業計画では、経営向上及び後継者育成を目的とした研修会の開催、会員による豚肉消費拡大活動への支援に加え、今年度から養豚振興会として県内養豚産業PR活動に取り組むなど、県産豚肉消費拡大対策を強化することとして、提出議案が全て原案どおり承認されました。



菅谷講師

研修会では、千葉県旭市の農事組合法人清和畜産代表理事の菅谷知男氏を講師に、「千葉県でのレンダリング要請活動と豚熱97例目の詳細」と題してご講演いただきました。千葉県で豚熱発生時の防疫措置にレンダリング装置の利用を可能とするまでの活動や、昨年3月に菅谷氏の農場で発生した豚熱の疫学的な考察、移動式レンダリング装置の利用状況など、通常聞くことができない、非常に示唆に富む内容でした。講演終了後も参加者が個別に講師に質問する姿が見られ、大変有意義な研修会となりました。

岩手県乳用牛群検定推進協議会 令和8年度通常総会

令和8年6月22日、岩手県乳用牛群検定推進協議会（会長・宇部洋吾新岩手農業協同組合常務理事）の令和8年度通常総会が滝沢市内で開催されました。



宇部会長

冒頭の会長挨拶要旨は次のとおり。「岩手県の牛群検定のうちAT検定の戸数はまだまだ少ない。地域ごとに是非推進して欲しい。一方、全国の酪農家戸数は9千戸を割る勢いで推移し、当農協管内の

- 共進会用 馬・乳牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・肉牛用牛衣
- 牛馬手入用毛ブラシ・根ブラシ・金ぐし
- 普通乗鞍・ウエスタン鞍・ボニー用鞍等乗馬具・鞍馬具一式・畜犬具
- 電気工事用革ケース・カバン・ズック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
- せんてい鉄ケース他造園工具ケース類 ●その他特別御注文のカバン等承っております

創業110年品質第一手造りの店

岩手県指定店 **塩釜馬具店**

盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL 019-622-5393（労働福祉会館隣）

酪農家戸数も昨年より21戸減少し、276戸となった。その中で、牛群検定のデータを活用した個体及び牛群の能力向上が非常に重要。一方、1頭当たりの産乳量には依然として地域差があるため、具体的な目標を掲げて努力することが必要。今後も岩手県の酪農を盛り上げるため、引き続き皆様のお力添えをお願いしたい。」

総会では令和7年度事業報告及び令和8年度事

業計画等、提出された議案の全てが承認されました。令和8年度計画では、AT検定法及び繁殖台帳Webシステムの普及拡大・繁殖データ精度向上のための研修会の開催、牛群改良に寄与するSNP検査等各種事業の実施、牛群検定非加入農家に対する有用性等の情報提供を通じた加入促進を図ることとしました。

畜産フェア開催

令和8年6月14日(日)、水沢競馬場で地方競馬のPRと参加各県の畜産に対する理解促進を図ることを目的に、東北6県の畜産団体^{*}による畜産フェアが開催されました。

当日は、真夏を先取りした暑さの中、開門前から多くの来場者の長蛇の列ができ、用意された引換券1,250枚は25分ほどで配付が終了しました。引換券を受け取った来場者は、各県の畜産加工品と交換し、その品を手にとって嬉しそうに顔をほころばせている表情が印象的でした。

地方競馬の売上げの一部は、畜産農家の経営改善、後継者の育成、家畜の感染予防等、畜産振興に役立てられています。

※青森県馬事畜

産振興協議会、秋田県馬事畜産振興協議会、宮城県地域畜産振興対策協議会、山形県馬事畜産振興協議会、福島県馬事畜産振興協議会、岩手県競馬振興協議会（事務局は各県の畜産協会）



家畜の保健衛生 (166)

豚熱の防疫措置の見直しについて

令和8年5月19日、豚熱発生時に殺処分となる対象範囲が見直され、これに伴い豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針及び同病に係る留意事項も改正されたので、その概要をお知らせします。

【背景】

これまで日本国内では、豚熱発生時に発生農場を直ちに清浄化できるよう全頭殺処分が行われてきましたが、発生農場の経営への影響や防疫措置に係る人的・精神的・財政的負担の軽減とまん延防止の徹底の両立を図ることを目的に、家畜衛生の専門家等が行った発生事例の詳細な分析により、「適切なワクチン接種によって免疫を獲得した症状のない豚（繁殖豚や肥育豚）」は、感染拡大リスクとならないと結論付けられました。

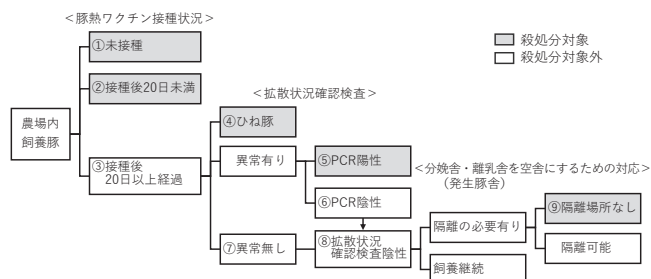
この知見を踏まえ、まん延防止のために必要な豚のみに殺処分命令を行うことができる「選択的

殺処分」が導入されました。

【殺処分の範囲】

他の農場への伝播リスクとなり得る次の1～3の豚が殺処分の対象となり、その範囲は、県が国と協議した上で、決定されます。

- 1 ワクチン免疫が成立していない豚
 - ・ワクチン未接種（防疫措置期間中に出生する子豚を含む）
 - ・ワクチン接種後20日未満
 - ・ひね豚
- 2 既に感染している豚
- 3 その他、家畜防疫員がまん延防止のために殺処分が必要と判断した豚



小ロットのオンデマンド印刷から
大量商業印刷まで

各種印刷・ドキュメント処理・アンケート調査支援



CTPシステム

小松総合印刷株式会社

岩手県盛岡市鉾屋町15-4 TEL (019) 624-1374 FAX (019) 623-6719
E-mail: mail@komatsu-gp.com URL: http://www.komatsu-gp.com

農場内で飼養されている豚は、一度全て疑似患者とされ、ワクチン未接種等の殺処分が確定している豚(①、②)以外は、殺処分の範囲を決定するため、家畜防疫員による拡散状況確認検査を受けます(③)。

検査により摘発されたひね豚(④)と異常がありPCR検査陽性と判定された豚(⑤)は疑似患者として殺処分対象となりますが、異常のない豚(⑦)及びPCR検査で陰性(⑥)と判定された豚は疑似患者から除外されます(⑧)。

発生豚舎は空舎にして消毒を徹底するため、発生豚舎にいた豚は移動させて隔離しますが、隔離できない場合(⑨)は、殺処分の対象となります。

また、次の(1)～(3)の場合には、清浄性が確保できないため、全頭殺処分が検討されることがあります。

- (1) ワクチン接種が適切に行われていない場合
- (2) 感染が限局していない場合(半数以上の畜舎で発生)
- (3) 監視プログラム適用期間中に3回以上発生した場合

【監視プログラム】

選択的殺処分除外された豚は基本的には、感染を拡大するおそれはありませんが、発生農場、疫学関連農場に対し、生きた豚等の移動が制限され、異常の有無や死亡頭数等について毎日報告することが課される、監視プログラムが適用されます。

移動制限の期間は、①患者の確定から90日が経過し、かつ、②防疫措置完了から28日が経過した日までですが、防疫措置完了後であれば一定の条件を満たすことで農場からの出荷や移動が可能となります。

また、続発が確認されない場合は移動制限期間を②の期間まで短縮することができます(最短で患畜確認から1か月半程度)。

養豚関係者の皆様におかれましては、引き続き、飼養衛生管理基準の遵守による発生防止対策及び選択的殺処分適用の前提となる適切な豚熱ワクチン接種に努めていただきますようお願いします。

畜産の研究 (161)

黒毛和種繁殖雌牛における分娩前後の胸囲長の増減を指標とした栄養状態の簡易モニタリング

1 背景と目的

本県の黒毛和種繁殖雌牛の平均分娩間隔は412日(令和7年6月末時点)であり、岩手県家畜及び鶏の改良増殖計画(令和8年3月策定)の目標である380日に比べて長くなっています。その要因の一つとして、分娩前後の母牛の栄養不足が考えられ、母牛の栄養状態を簡便に把握できるモニタリング手法の開発が求められています。

そこで、分娩予定日8週間前から分娩後8週の栄養状態と受胎性を調査し、分娩前後の胸囲長の増減を指標とした栄養状態の簡易モニタリング指標を作成したので、その概要を紹介します。

2 方法

黒毛和種繁殖雌牛延べ30頭を、初回授精で受胎した牛と受胎までに2回以上の授精を要した牛に分け、繁殖成績や産子の発育、血液生化学検査値、胸囲長の推移を調査しました。胸囲長

は、肩甲骨後端から指2本後ろの胸周りを巻尺で測定しました(参考)。また、産子は自然哺育で管理し哺育期間は70日間としました。

3 結果

- (1) 受胎までに2回以上の授精を要した牛は、初回授精で受胎した牛と比較して、初回発情回帰日数や授乳期間中の産子の1日当たりの平均増体量(以下「DG」という。)に差は認められないものの(表)、栄養不足の指標である血中遊離脂肪酸(以下「NEFA」という。)及び β -ヒドロキシ酪酸(以下「BHB」という。)



参考 胸囲長の測定方法

表 受胎までの授精回数別の繁殖成績等

受胎までの授精回数	頭数	授精回数	初回発情回帰日数	初回授精日数	空胎日数	妊娠期間(日)	授乳期間中の産子のDG(kg/日)
1回	11		41.4±10.5	41.5±10.6	41.5±10.6 ^a	288.5±3.4	0.67±0.15
2回以上	19	2.4±0.8	39.7±10.6	40.9±10.5	66.1±22.3 ^b	289.3±4.1	0.71±0.13

※ 異符号間に有意差あり(p<0.05)

※ 平均値±標準偏差

『生産者と共に豊かな食生活を未来へつなぐ』



JA全農くみあい飼料株式会社

北日本事業本部
北東北支店 岩手営業所

〒020-0891
岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2丁目5番2号
TEL 019-638-7910 FAX 019-638-7920

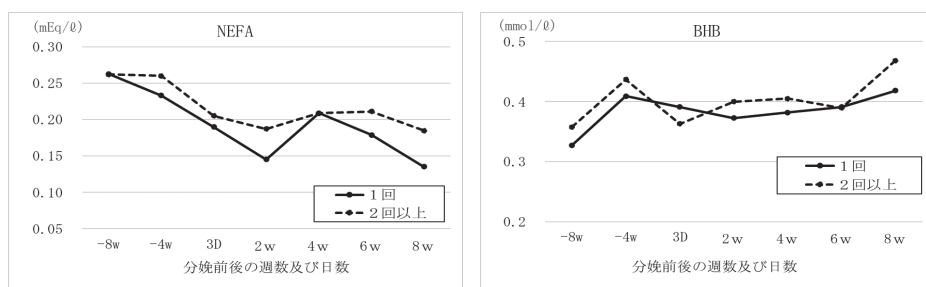
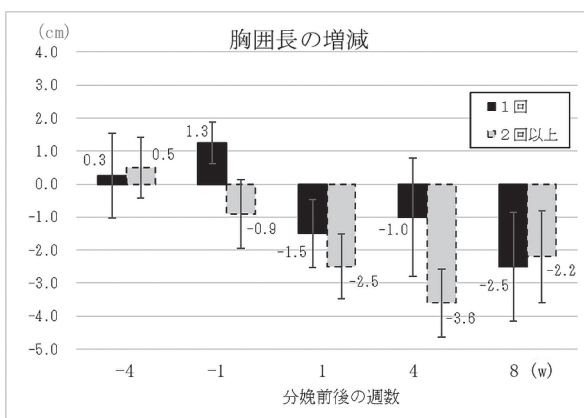


図1 受胎までの授精回数別の分娩前後の血中NEFA及びBHB濃度

濃度が高く推移する傾向があることから、授精回数の増加は分娩前後の栄養不足によるものと考えられました(図1)。

(2) 栄養状態のモニタリング指標について、受胎までに2回以上の授精を要した牛は、分娩前8



※エラーバーは標準誤差
※分娩予定日8週前の胸囲長を0とした

図2 受胎までの授精回数別の分娩前後の胸囲長の増減

週と比較して分娩後1週の胸囲長が2cm以上減少しました(図2)。一方、分娩前1週では、胸囲長が増加する個体がいたことや、両区の差が最も大きかった分娩後4週では、飼料給与量の見直し時期とし

て遅いことから、モニタリングのタイミングは分娩後1週が最適と考えられました。

以上から、分娩前後の栄養状態の簡易モニタリングには、胸囲長の測定が有効であり、分娩予定日8週前と比較して分娩後1週に胸囲長が2cm以上減少した個体は、栄養不足が疑われるため、飼料給与量を増やす必要があると考えられました。

4 終わりに

栄養要求量は産歴や泌乳量、体重等によって差が大きいことが知られており、一律な管理で全頭の栄養を適切に充足させるのは困難です。そのため、良好な繁殖成績を得るには、栄養が不足する個体を早期に発見し、飼料給与メニューを見直すことが重要です。今回、紹介したモニタリング手法は、巻尺があればどなたでも実践可能であることから、個体ごとの栄養管理の一助になるものと思われます。

乳用牛群検定情報 (24)

一般社団法人家畜改良事業団

～近年の305日乳量と分娩間隔～

この5月に令和7年度乳用牛群能力検定成績速

表 令和7年度検定成績
305日検定成績(立会、ホルスタイン)

検定別	都道府県	頭数(頭)	乳量(kg)			乳脂率(%)			平均乳脂量(kg)	蛋白質率(%)			無脂固形分率(%)			平均濃厚飼料給与量(kg)	平均乳飼比(%)	平均飼料効果	平均体重能率指数
			平均	最低	最高	平均	最低	最高		平均	最低	最高	平均	最低	最高				
立会	北海道	159,570	9,901	2,176	25,641	4.04	2.2	6.3	400	3.37	2.5	4.8	8.84	7.4	9.9	3,349	15	3.0	15.4
	都府県	72,476	9,862	1,606	19,582	3.94	1.3	6.7	389	3.35	2.5	4.8	8.81	7.5	9.9	3,791	22	2.6	15.4
	岩手県	8,740	9,927	1,606	18,413	4.03	2.2	6.5	401	3.33	2.6	4.5	8.78	7.7	9.9	3,313	20	3.0	15.6

報が公開されましたので、今回は令和7年以前の12年間における305日乳量と分娩間隔の岩手県での推移についてご紹介します。

(1) 乳用牛群検定概況

令和7年度末時点の検定農家は、全国的に減少しており、令和6年と比較して全国で201戸(3.4%)減少し5,755戸、岩手県では10戸(3.1%)減少し308戸となっています。

頭数も全国的に減少しており、令和6年と比較



ガスの未来、その一歩先へ ～Our Future. Take one step～

東邦アセチレン株式会社 八戸支店

〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地1丁目8番8号
tel 0178-21-2200 fax 0178-21-2202

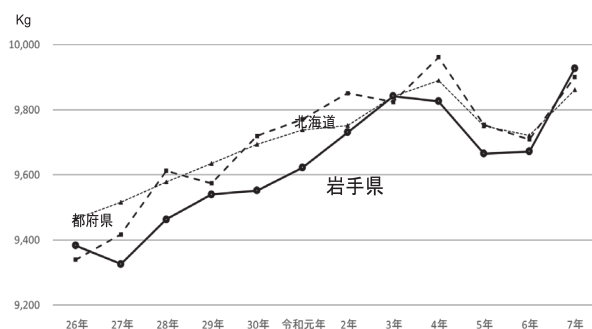


図1 近年の305日乳量の推移

して全国で7,831頭（1.6%）減少し485,450頭、岩手県では403頭（2.5%）減少し15,514頭となっています。

(2) 305日検定成績

表および図1に305日検定成績を示しました。305日乳量は近年減量傾向でしたが、令和7年は大きく回復し北海道9,901kg、都府県9,862kgといずれも令和4年に次ぐ過去2番目の高乳量となりました。

岩手県においても、近年は減量傾向でしたが、令和7年は大きく回復し過去最高の9,927kgを記録し、乳脂率も4.03%と好調でした。

(3) 分娩間隔

図2に示したとおり、北海道、都府県はこの12

年間で全体として短縮傾向はあるものの、昨年とはともに長期化してしまいました。しかし、令和7年は北海道、都府県ともに短縮しました。昨年よりも北海道は5日短縮し417日、都府県は1日短縮し441日となり、全国では4日間短縮し424日となっています。

岩手県でも、昨年よりも3日短縮して442日と、分娩間隔が最も長かった平成25年の451日と比べ、9日間短縮したことになります。

従来、乳量が伸びると、分娩間隔が長くなると言われてきましたが、近年は全国的にも岩手県でも乳量と分娩間隔ともに改良改善が進んでいます。

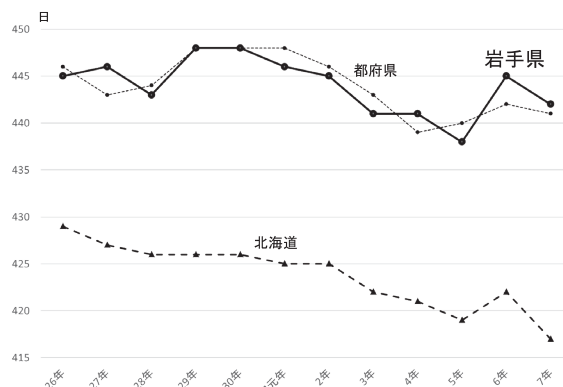


図2 近年の分娩間隔の推移

畜産技術情報(115)

電気柵を効果的に設置しましょう

野生獣による農作物の被害は、クマ・イノシシによる飼料用トウモロコシ子実の食害や、イノシシによる飼料用トウモロコシ種子（播種直後）の食害及び早春の草地の掘り起しのほか、シカによる牧草の食害などが顕著になっています。

農作物の被害対策の一つである「電気柵」の設置方法について、再確認しましょう。

1 電気柵の設置方法

- ☐ パワーユニットは、電気柵を張る「総通電距離」によって機種を選定する
- ☐ 1か所につき、パワーユニットは1つとする
- ☐ 設置したら、「直ちに通電」する
- ☐ 24時間通電する

(1) パワーユニット（電気柵の本体）

十分な電気ショックを与えるため、専用のパワーユニットを用いて5,000～8,000ボルトの電圧を確保します。ワイヤーを張る「距離」と「段数」によって、「総通電距離」を計算します。



毎日3回、牛乳・ヨーグルト・チーズ。「3-A-Day」をはじめよう。

3-A-Dayのルールは簡単。牛乳・ヨーグルト・チーズをどれでも自由に1日3回（または3品）、食生活にとりいれる。そうすれば少ないエネルギー（カロリー）で食生活が改善されて、栄養バランスの良い食事になるという、簡単で手軽にできる健康習慣の提案です。

3-A-day

検索

岩手県牛乳普及協会

〒020-0024 盛岡市東園一丁目4番10号第二産業会館
TEL.019-653-3795

同じ面積でも、ほ場の形やワイヤーを張る段数によって「総通電距離」が変わることから、見合った出力のパワーユニットを選びます。クマ、イノシシ用には、地面から20cm、40cm、70cmの3段張りとし（図1）。

「パワーユニットの出力が不足するから」と、複数のパワーユニットを組み合わせるのはやめましょう。互いに干渉しあうため、十分な効果が得られません。

(2) 通電のタイミング

獣は、いつ、ほ場に現れるか予測できません。食害が出ていなくても、獣は「パトロール」して、食べ物を「物色」しています。獣が電気柵に「初めて触れた時」に電気ショックを受けることにより「電気柵は怖いもの」と覚えさせることが大切です。

そのため、電気柵を設置したら、「直ちに通電を開始」しましょう。また、「夜だけの通電」ではなく、「24時間通電」しましょう。

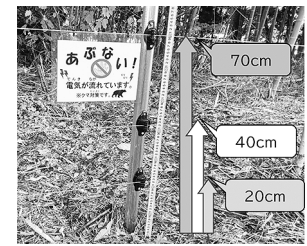


図1 クマ、イノシシ用の電気柵設置例

2 作物から電気柵までの間隔

- ☐ 電気柵の周りに、管理するための通路を設ける
- ☐ 漏電防止・見通しの確保のため、電気柵から1.5m程度は草刈り等を実施する
- ☐ 定期的に、電圧と支柱やワイヤーの破損がないか見回り点検し、維持管理する

(1) 電気柵の「見える化」と維持管理

点検を行うため、電気柵の周囲を軽トラック等で走行できるように通路を設けます。電気柵の外側、内側とも1.5m程度は「緩衝帯」として見通しを良くしておくことにより、獣に電気柵があることを認識させるとともに隠れる場所を無くします（図2）。

獣が電気柵の支柱を倒したり、穴を掘って侵入を試みているかもしれません。定期的に電気柵の周囲を見回り、点検することが大切です。

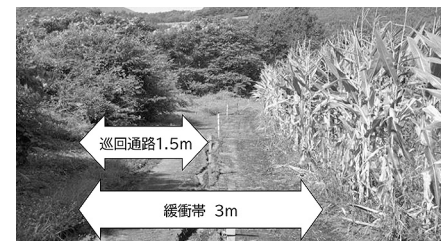


図2 電気柵の内外の1.5mは見通し良く

(2) 定期的な点検と補修

定期的に電圧をチェックし、十分な電圧が確保されていることを確認します（図3）。

枝や草などがワイヤーに触れていると、漏電してしまい、十分な電気ショックを与られません。電気柵の周囲は、定期的に草刈りをして電気柵に草などが触れないようにします。電圧が落ちている場合は、原因を特定して補修します。



図3 定期的に電圧を確認

3 ワイヤーの張り方

- ☐ ワイヤーは、「緊張具」を使って「たるみ」を解消し、ピンと張る
- ☐ 「くぼ地」には、支柱を増やして、ワイヤーを地面と平行に張る
- ☐ 侵入されやすい場所は、「トリップ柵」として、二重にワイヤーを張る

(1) ワイヤーはピンと張る

ワイヤーはたるませずに「ピンと張る」ことが重要です。専用の「緊張具」を使って、「たるみ」を巻き取ります（図4）。

地面に凹凸があり、野生獣が侵入する可能性がある場合は、ワイヤーと地面が平行になるよ

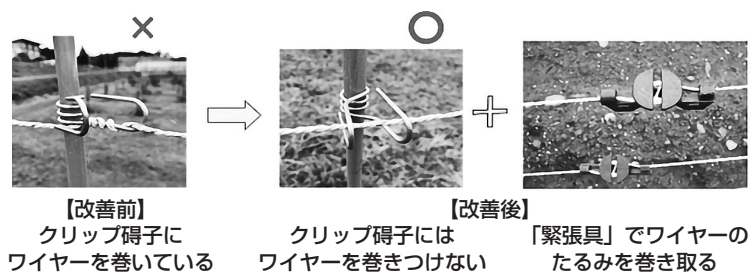


図4 専用の「緊張具」を使って「ピンと張る」

うに支柱を追加します(図5)。

穴を掘られたことがある、山側など、侵入されやすい場所には、本柵の30～50cm外側に、1段張りの柵を追加します(図6)。トリップ柵を突破されても本柵があることで侵入を防ぐことができます。

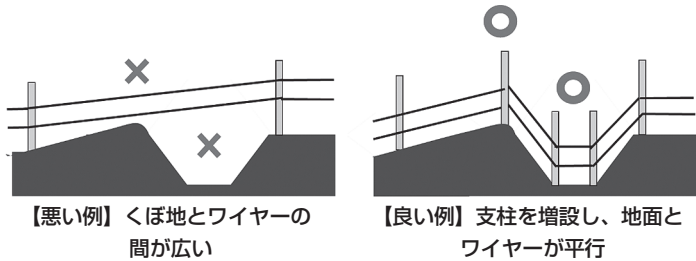


図5 地面の盛り上がり部分やくぼ地への設置

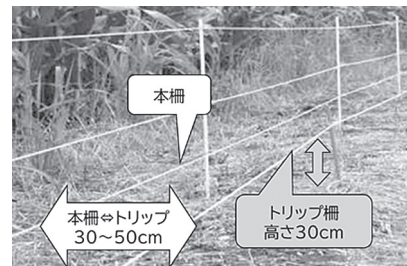


図6 穴を掘られる等、侵入防止のため、トリップ柵を設置した例

県内黒毛和種子牛市場成績

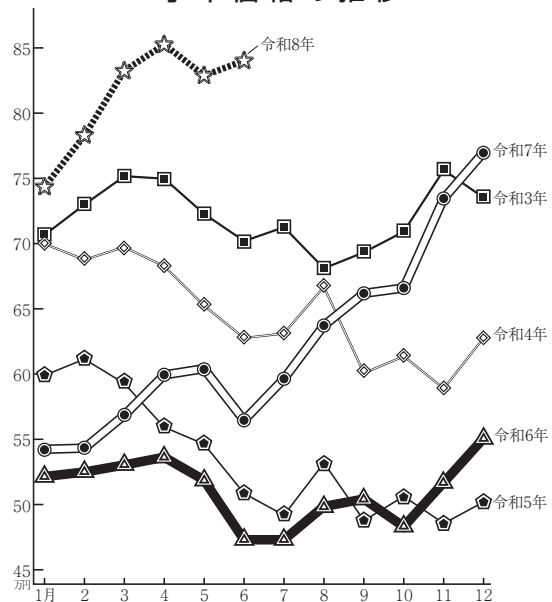
(全農岩手県本部)

市場区分	性別	令和8年5月			令和8年6月		
		頭数	平均価格	平均体重	頭数	平均価格	平均体重
県南※ 胆江・気仙 磐井	雌	194	747,926	299	196	766,672	305
	雄						
	去勢	228	913,352	343	233	861,026	336
	計	422	837,515	322	429	817,918	322
中央初日 宮古・北部 奥中山・久慈	雌	105	786,574	296	167	795,167	296
	雄						
	去勢	228	873,111	321	176	884,306	324
	計	333	846,003	313	343	841,174	310
中央2日目 滝沢・雫石 八幡平・玉山 岩手・葛巻	雌	148	786,634	287	144	798,600	293
	雄						
	去勢	214	855,317	323	174	909,011	318
	計	362	827,236	308	318	859,014	307
中央3日目 紫波・盛岡 花巻・北上 遠野	雌	142	756,059	297	132	795,817	295
	雄						
	去勢	153	837,682	330	147	901,042	327
	計	295	798,536	314	279	851,258	311
合 計	雌	589	766,518	295	639	787,310	298
	雄						
	去勢	823	873,046	329	730	886,134	327
	計	1,412	828,741	315	1,369	840,084	313

※県南市場は令和8年4月より1日開催

※価格は円(税込み)、体重はkg

子牛価格の推移



県内家畜市場における指定肉用子牛取引実績

公益社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会

区 分	令和8年5月		令和8年6月	
	頭 数	平均価格	頭 数	平均価格
黒毛和種	1,158頭	813,101円	1,139頭	825,551円
褐毛和種	—	—	—	—
日本短角種	—	—	—	—
ホルスタイン種 (雌を除く)	—	—	1頭	393,800円
交雑種・乳	3頭	358,967円	—	—

※ 指定肉用子牛とは、肉用子牛生産者補給金制度における、平均売買価格算定の対象となる牛(区分ごとに体重の範囲が定められている。)

※ 平均価格は消費税込み

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる!畜産!9

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!
配信内容:ヨーロッパアルプス酪農のカとチーズ街道、オーストリア・プレゲンツァーヴァルト/日本畜産学会100周年 第132回大会総集編/国際養豚養鶏総合展2024 総集編ほか

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846



スマートフォンからはこちら
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産